

東南アジア特集に関しては、川口健一、宇戸清治、岡田知子の文学専門の各氏にお任せした形になり、私自身は編集委員とは名ばかりで何もお手伝いしないまま終わってしまい申し訳ない気持ちです。ご苦勞頂いた関係諸氏に厚く御礼申し上げます。ともあれ、『総合文化研究』第3号に平素、馴染み薄い東南アジアの文化と文学、とりわけ、その文学が特集されたことは大変喜ばしい限りです。未だ歴史は浅いが、素晴らしい装丁の本誌が内容的に益々充実し、今後、学内だけでなく、広く学外、さらには、国際的に愛読される総合文化の学術雑誌へと発展していくことを願って止みません。（奥平龍二）

タイからはチューラーロンコーン大学文学部比較文学科主任教授のトリート・シン・ブンカチョーン氏より、気鋭の新進作家ウイン・リオワールの最新作に関する貴重な論稿を寄せていただくことができた。拙稿も同じ作家の一短編を紹介したが、これは全くの偶然である。最近の十年、タイではチャート・コープチットやカノックボン・ソンソムパン、ウィモン・サイニムヌアンら純文学系の作家の活躍が目立ち、新旧交替の気運を感じさせる。今後もこれらの作家たちの作品や思想を精力的に紹介していけたらと思う。（宇戸清治）

ひとことで「東南アジア」と呼ばれる地域には、実に多種多様な民族・言語・文化が存在します。本号の特集タイトルについても、編集会議において、「東南アジアの現代文学」ではどうかという議論になりました。その中で、現代とはいづを指すのか、どのような形態のものを文学というのか、などあらためて考えさせられ、また各国の状況の違いを実感しました。

編集にあたって的確なアドバイスをしてくださった西永良成先生、また大変な実務作業を担当してくださった教務補佐のみなさまに感謝します。（岡田知子）

特集「東南アジアの文化と文学」は本学の東南アジア研究と教育の一端を示すものであると思います。また、本号では新たな試みとして、インドネシア、カンボジア（フランス在住）、ベトナム、タイの現役の文学者、文学研究者に執筆を依頼し、御寄稿いただきました。特集を企画くださった西永所長に感謝申し上げます。

ウティン・ブンニャウォン先生の御霊が安らかでありますようお祈り致します。本誌掲載の「ラオス現代文学」その誕生と傾向」がウティン先生の御遺稿になりました。

編集作業におきましては、教務補佐の岸井さん、蕭さん、福岡さんの懇切丁寧な御協力、御尽力をいただきました。御三方の御苦勞に感謝します。（川口健一）

2000年3月25日発行

Trans-Cultural Studies No.3

総合文化研究 第3号

編集委員 川口健一（責任編集）奥平龍二
石井和子 宇戸清治 岡田知子

編集スタッフ 吉本秀之 岸井紀子
蕭幸君 福岡由仁郎

発行 東京外国語大学総合文化研究所

東京都北区西ヶ原 4-51-21

〒114-8580

電話 03-5974-3307

ファックス 03-5974-3153

ホームページ <http://caper.fs.tufs.ac.jp/>

印刷 (株)壽工業写真社

東京都北区滝野川 1-90-8